
遥

相澤 一至

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遙

【Nコード】
N0979N

【作者名】
相澤 一至

【あらすじ】
私は色々達の奏でる衝突音楽に悩まされていた。
短編散文です。

(前書き)

この小説は私の知人がメールで私に送りつけてきたものです。
少し手直しをして、みなさんに見ていただこうと思い投稿しました。

あーあー、寒風よ応答せよ。

家の居間は歩くたびに音が鳴ります。

あーあー。

いつからか、居間の天井からは、統一感のまるでない色々が垂れ下がるようになった。

ぬいぐるみ、辞書やら週刊誌やらの本類、DNAの立体構造フィギア、お菓子、爪切りや、歯ブラシなど生活用品、私が誕生日にあげた鶴の羽が動く玩具、義父が天井に取り付けた数十個のフック、そこから延びる長い紐、吊下げられた色々は家族が歩くたびにぶつかり合い、それが連鎖して、半ば一つの曲かと思うような長い衝突音が続くのだった。

丁度顔に当たる部分に色々があるのだ。

歩きにくいことこの上なし。

一年以上この状態なものだから、ある日、義父に天井披露宴を辞めないかと相談したらば、大喧嘩になった。

私は大声で怒鳴り散らしても足りぬ足りぬで、次々目の前の紐をハサミで切った。

「歩くたび煩いのよ！」

じゃぎ。

「何考えてんのよ！」

じゃぎ。

「急に人の家の人間になったと思ったらこれよ！」
じゃぎ。

「そんなに物を吊るしたいのならあんたを吊るしてやるわよ！」
じゃぎじゃぎじゃぎ。

ああもう分らなかった。

私が疎ましいのは、黒く迫るものは、母の離婚か、吊下げられた色々か、それを吊るしている義父か、色々の発する長い衝突音楽か怒鳴れば怒鳴るほど分らない。

少しの沈黙の後、私から死を逃れた残りの色々の中から、何かが誰の手に触れられるでもなく勝手に落ちた。

DNAの立体構造フィギュアだった。

涙まみれではつきりしない視界の中の二重螺旋が、三重にも四重にも見えた。

さようなら、ただ螺旋状に続く怠惰な日常。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0979n/>

遥

2010年10月20日19時05分発行